

CAMPUS NOW

早稲田大学広報

No. 251
2024/04

特集
キャンパス、
ひびきあう
理性

巻頭インタビュー
弁護士
菊間千乃

YUKINO KIKUMA

菊間千乃さん



「素」でいるための空間こそが、キャンパス

アナウンサーとして活躍した後、現在は弁護士として企業法務や紛争解決に従事する菊間千乃さん。小学生の時に観戦したラグビーの試合がきっかけで早稲田大学を志望し、入学前からアナウンサーになることを夢見ていたという。

「報道の仕事に就きたかったので、法律や政治を学びたいと法学部に入りました。とはいえ周りは法曹志望の学生ばかり。知識では勝てなかったのですが、原告・被告のチームに分かれるディベートではほとんど負け知らずでした。口達者な性格だったからかもしれません」

菊間さんが学生時代に大切にしていたのは、授業の空き時間だった。早稲田キャンパスの10号館には学生が出入りできる屋上スペースがあり、そこで多くの時を過ごしたと語る。

「歩いている友人に屋上から声をかけて、青空の下

で一緒にご飯を食べたりと、のんびりとしたひと時でした。10号館からは大隈銅像越しに大隈記念講堂を眺めることができ、早稲田ならではの景色が今でも頭に残っています。集まっていたのはゼミの仲間ですが、勉強よりも他愛のない話を中心でしたね」

法学部の学生が集まる8号館は2005年に改修されているが、菊間さんは「雑多な学生が集まる場所」だったと、自身が過ごした旧8号館を振り返る。

「多くの司法試験受験生が利用する学生

読書室があり、私は定期試験前だけ利用していましたが、どこか場違いでした。ラウンジでは、ゼミの発表の打ち合わせをして、終わったら高田馬場へ飲み会へ。当時は携帯電話もなかったので、“たまり場”に集まることが、重要なコミュニケーション手段でしたね」

現在は自らが法曹として複雑な社会課題と向き合う菊間さん。若い世代に対し、「建設的にコミュニケーションしてほしい」と、メッセージを贈ってくれた。

「価値観が大きく変わる中、社会全体が

方向性を模索していますが、不正やハラスメントが絶えないのも事実です。これから社会に出る学生には、“声を上げる力”が必要になるでしょう。他者への敬意は抱きつつも、意見はしっかりと伝える。そうした建設的な姿勢が、自分や組織を成長させるはずです」

時には逆境や理不尽と対峙せざるを得ない現代社会。果たして大学という空間には、どのような存在意義があるのだろうか。

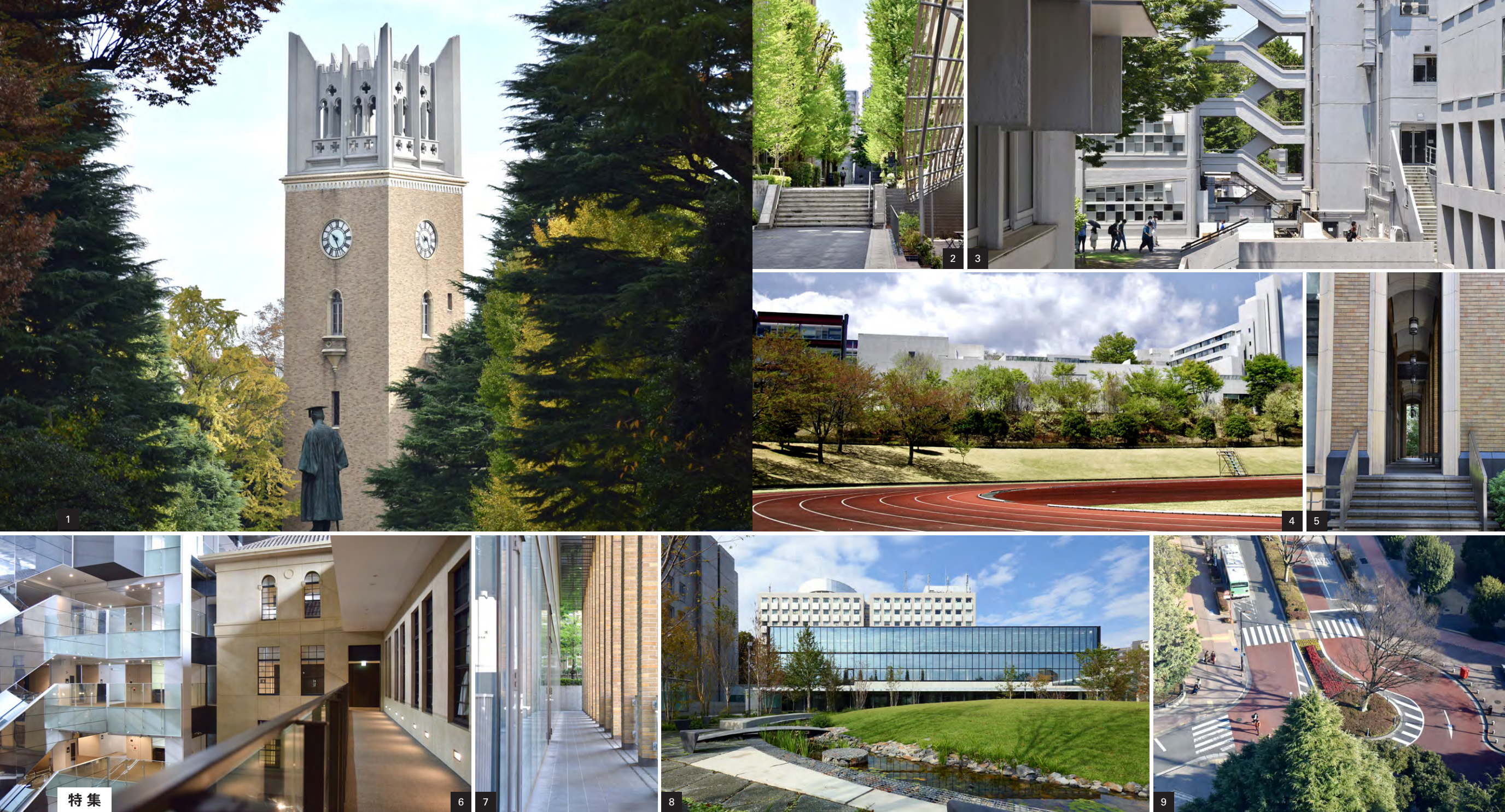
「自分のベースに戻る大学という場所があるから、安心して外に飛び出せます。今でも仲間と集まりますが、近況報告をしながら羽を休めると、再び社会で頑張れるんです。そんな“素のまま”の自分でいられる友人に出会えるのがキャンパス。かけがえのない関係性は、何でもないような日常から生まれるのかもしれない」



PROFILE

1972年東京都生まれ。1995年早稲田大学法学部卒業後、株式会社フジテレビジョンに入社。アナウンサーとしてバラエティーや情報、スポーツ番組など数多く担当。2007年司法試験に専念するために退社。2010年司法試験に合格し、現在は弁護士法人松尾総合法律事務所にて弁護士として活動。2019年、早稲田大学大学院法学研究科修了。





キャンパス、ひびき あう理性

多くの学生が行き交う早稲田大学のキャンパス。

本学では最適な学びと学生生活を提供できるよう、キャンパス整備を進めています。

本特集では、キャンパスの各設備を活用する学生たちをご紹介します。

知性、感性、理性が育まれる風景をお届けします。

- 1 大隈銅像、大隈記念講堂(早稲田キャンパス)
- 2 国際文学館(村上春樹ライブラリー)前(早稲田キャンパス)
- 3 56号館、65号館(西早稲田キャンパス)
- 4 織田幹雄記念陸上競技場(所沢キャンパス)
- 5 8号館(早稲田キャンパス)
- 6 3号館(早稲田キャンパス)
- 7 3号館(早稲田キャンパス)
- 8 戸山の丘(戸山キャンパス)
- 9 早稲田キャンパス・正門前ロータリー

ラーニング・コモンズを活用し 仲間たちと意見を交換

@W Space

撮影＝戸山キャンパス37号館

文化構想学部1年
米加田朝妃さん

緑豊かな環境に囲まれ W Spaceでグループワーク

大学内には学生が自由に学習できるスペース「ラーニング・コモンズ(通称：W Space)」が複数あり、個人学習スペースのほか、グループでディスカッションができるエリア、プレゼン準備などに適した機材が設置されたエリアなどが整備されています。私は戸山キャンパス37号館のW Spaceを、授業でのグループ課題やサークルでの話し合いなど、複数人で考えをまとめたいときに利用しています。講義はオンラインで自宅で受講するので、キャンパスにいるときはグループワークに多くの時間を割くことが可能です。

戸山キャンパスのW Spaceは、ガラス張りの個室、カフェが併設されたフリースペース、デスク型の屋外エリアなどで構成されています。窓からは緑豊かな「戸山の丘」を眺められ、開放感にあふれているのが特徴です。履修する授業の一つに、グループで一冊の本についての要約と考察をまとめ、発表する課題がありました。皆でアイデアを出しながら、新たな方向性を探る作業では、大きなホワイトボードのある個室を活用。プロジェクターを使って課題発表のリハーサルも行いました。グループワークで考えが煮詰まったときは、デッキで外の空気に触れたり、戸山の丘に寝転んで空を見上げたりと、気分転換しながら作業効率を向上させています。

仲間たちとの意見交換で成長を感じるの、新しい気づきと出会ったとき。問題に向き合えていない自分を再認識させられることもあり、視野を大きく広げてくれます。将来の進路の一つとして、関心があるのは出版業界です。チームのアイデアから物事を創造する能力を培うことで、出版文化に貢献できる社会人になりたいです。

仲間たちとの意見交換で成長を感じるの、新しい気づきと出会ったとき。問題に向き合えていない自分を再認識させられることもあり、視野を大きく広げてくれます。将来の進路の一つとして、関心があるのは出版業界です。チームのアイデアから物事を創造する能力を培うことで、出版文化に貢献できる社会人になりたいです。



W Spaceの
詳細はこちらからご覧いただけます



機械や工具がそろう環境で ロボットコンテスト優勝を目指す

西早稲田キャンパスの「WASEDAものづくり工房」で、サークルの仲間とロボット製作に励んでいます。小学生の頃からロボットや電子工作に興味があった私は、中学・高校の部活動でもロボット作りに没頭。早稲田大学入学後はロボコンサークル「早稲田大学ROBOSTEP」に所属し、毎年6月に開催さ

れる「NHK学生ロボコン」に向けて新たなロボットを開発しています。チームで一つのロボットを作る工程では、設計班と電装班に分かれ、機械設計、加工、組立、制御などの各作業を分担。それぞれが持つ専門性を結集しながら、動作試験などでトライアンドエラーを重ね、完成に近づけています。ロボットは決して一人の力では出来上がりません。地道な作業を重ねる日々の中で、チームワークが自分を成長させていると感じています。

座席を自由に使用できるWASEDAものづくり工房では、メンバーと議論しながら3D設計ソフトを用いて設計をしています。加工などの実作業を行うのは、隣接する工作機械室。基本的な工具はもちろん、バンドソー、ボール盤、レーザーカッターといった設備が一通りそろっているので、製作に困ることはありません。また、団体活動スペースを使用することで、中断した作業を再開しやすいのも利点です。創造理工学部では、総合機械工学科で“4力”とも

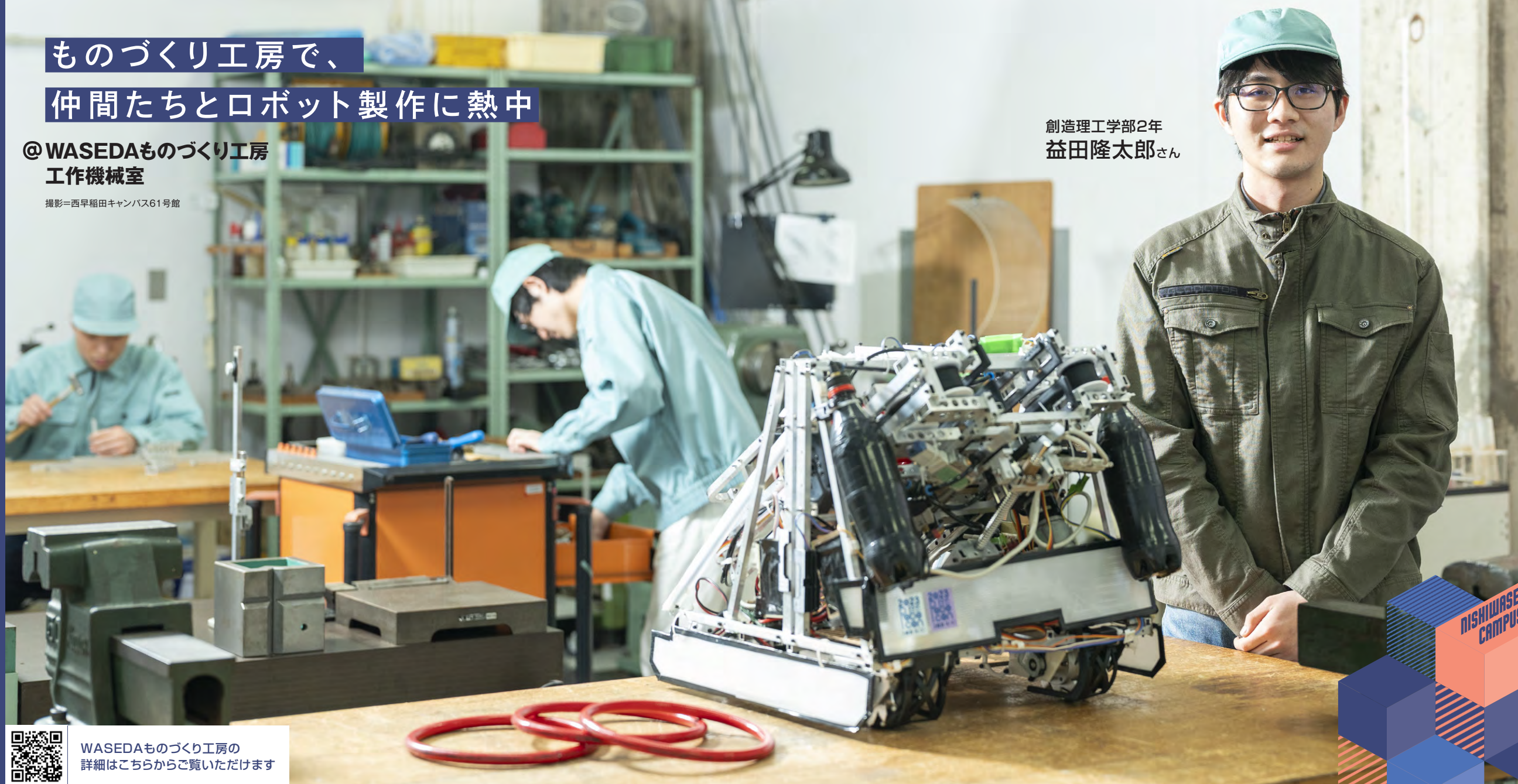
呼ばれる材料力学、流体力学、熱力学、機械力学を中心に学んでいます。学部で習得した知識を、サークルで実践できるのも、大学の面白さと感じます。特にWASEDAものづくり工房は、理工系の学部が集まる西早稲田キャンパスにあるため、授業の空き時間を有効に使うことが可能です。将来の目標は宇宙飛行士。ロボットや工学の知識を生かしながら、夢に近づいていきたいです。

ものづくり工房で、 仲間たちとロボット製作に熱中

@WASEDAものづくり工房
工作機械室

撮影＝西早稲田キャンパス61号館

創造理工学部2年
益田隆太郎さん



WASEDAものづくり工房の
詳細はこちらからご覧いただけます



学生アスリートを支えるクリニックで 競技パフォーマンス向上へ

@スポーツ医科学クリニック

撮影=所沢キャンパス101号館

WASEDA UNIVERSITY

CLINIC OF SPORTS MEDICINE

国際教養学部2年
高橋安未さん

スポーツ科学の知見を結集し 各種専門家がサポート

幼い頃から柔道を続け、現在も早稲田大学柔道部に所属。高校時代の前十字靭帯負傷を乗り越え、競技を続けてきました。しかし大学1年の9月にけがの状態が悪化し、手術を決意。術後はリハビリのため、東伏見キャンパスにあるスポーツ医科学クリニック(*)に通っています。

スポーツ医科学クリニックでは、早稲田大学で研究室を持つ教授陣が中心となり、学生アスリートの抱える問題に対応してくれます。部門は整形外科相談、内科相談、コンディショニング、リコンディショニング、ニュートリション(栄養)、メンタルの6つに分かれ、スポーツドクターやアスレティックトレーナー、スポーツ栄養士の方々の手厚い支援を受けます。私が通うリコンディショニング部門では、けがをした選手の競技復帰へのサポートが中心。スポーツ科学部学生の実習の場としての側面も持つ

ため、学生トレーナーの指導があるのも特徴です。開室日は月曜日から木曜日の4日間(東伏見スポーツ医科学クリニック)。できるだけ早く治したいという思いから、私は多いときで週4回通っており、曜日により異なる担当の先生が構成した、専門領域別のリハビリメニューに取り組んでいます。膝のけがで歩くことも困難な状態から手術をしたので、術後すぐは日常生活を取り戻すためのリハビリに取り組んできました。その後、膝の可動域を少しずつ広げ、痛みのない範囲で体重をかけています。最近は、徐々に柔道での激しい動きもできるようにトレーニングしているところです。先生方はアスリートの目線で一緒に考えながら、一人ひとりに最適なプログラムを構築してくれていると感じます。

4歳から始めた柔道は、私にとって生活の一部です。競技が好きなのはもちろん、礼儀作法や対人関係など、人としての大切なことを柔道から学んできました。競技者としての目標はイギリス代表として試合に出ること。そのために、まずはしっかり競技復帰に向けリハビリを頑張ります。将来的にも海外で働くことを希望しているので、夢は柔道を続けながら世界で活躍することです。

※スポーツ医科学クリニックは所沢、東伏見各キャンパスに設置されています。所沢スポーツ医科学クリニックの開室日は火曜日、水曜日、金曜日の3日間となっています。



スポーツ医科学クリニックの
詳細はこちらからご覧いただけます



キャンパス内のお困りごとを

早稲田ポータルオフィスで解決

@早稲田ポータルオフィス

撮影＝早稲田キャンパス7号館

大学関係者の相談に応じる キャンパスの総合案内窓口

早稲田ポータルオフィスは、在学生、教職員、卒業生など、誰もが気軽に利用できる、一時相談窓口としての機能を持ったオフィスです。私はここで総合案内スタッフとして働いており、主な業務内容は、遺失物の管理、各種証明書の発行、「W Space」と呼ばれるグループ学習施設の管理などです。授業の運営もサポートしており、教室機材のトラブルなどに

も対応しています。授業期間中の開室時間は平日8時40分～20時で、窓口だけではなく、電話でもご相談を受け付けています。

特徴的なサービスとして、「Talk Anywhere」があります。これは、私たちのような在学生のスタッフが、学生の相談を受け付ける場です。履修相談や科目登録などの手続きはもちろん、サークル活動や授業内容の調べ方など、学生生活に関わることなら内容は問いません。特に新入生の方は不安な面も多いはずなので、頼れる先輩のアドバイスを積極的に活用してほしいです。

スチューデント・ジョブは、授業の空き時間を活用して効率よく働けることが魅力です。臨機応変に相談に応じる力、後輩をサポートする力を身につけ、社会人基礎力認定制度を利用して認定を取得できました。これからも相手の現状を把握し、ニーズにしっかりと対応していきたいです。

文学部3年
田端柚希さん



早稲田ポータルオフィスの
詳細はこちらからご覧いただけます



自分に合った使い方ができる 目的に特化したエリア区分

文化構想学部授業は主に戸山キャンパスで受けていますが、中央図書館の蔵書数に引かれて、早稲田キャンパスに足を運ぶことも多いです。幼い頃から読書に親しんできて、棚にびっしりと本が詰まっているのを見ると、宝探しのようでワクワクします。中央図書館は文庫エリアも充実しているので、物語を楽しみたいときに、小説を借りることも多いです。落ち着いた雰囲気の間読席で、書棚から選んだ本をその場で読むことができます。

一方、レポート課題などの作業をしたいときには、2階の間読席を使っています。こちらは会話禁止の静かな空間で、パソコンの利用は可能。集中できる環境が整っています。さらに地下には研究書庫があり、明治時代に刊行された資料の原本保存などがされています。その蔵書の豊かさと早稲田大学の歴史に圧倒される空間は、探検をしているような感覚にさせてくれます。

私が受験生の頃、孤独やプレッシャーで不安になったときには図書館へ行くことで少しほっとすることができました。将来は、かつてそんな自分が図書館に助けられたように、何かつらさを感じている人に対してそっと寄り添える人、温かな心の居場所を作れる人になりたいです。

文化構想学部1年
安延穂香さん

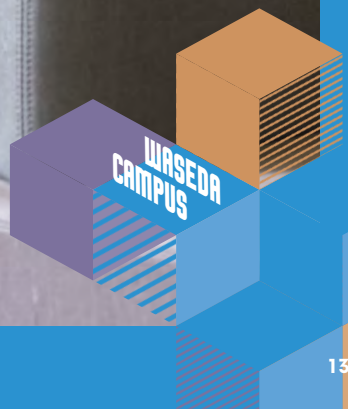
膨大な蔵書に囲まれて 中央図書館で自分の世界に没入

@中央図書館

撮影＝早稲田キャンパス



中央図書館の
詳細はこちらからご覧いただけます



まちと融合する、 新時代の キャンパスを目指して

副総長(キャンパス企画担当)
／理工学術院教授
後藤春彦



Waseda Campus Master Plan 2023
の詳細は、こちらから
ご覧いただけます



新9号館の詳細は、
こちらから
ご覧いただけます

Waseda Campus Master Plan 2023の推進

早稲田大学のメインキャンパスである早稲田キャンパスは、1882年の創立以来、時代の要請に合わせて整備されてきました。そして現在、「Waseda Campus Master Plan 2023」を立案し、「まちと融合した大学」の実現に向けてキャンパス整備を進めています。本学副総長(キャンパス企画担当)の後藤春彦教授が、キャンパス整備の系譜とその将来像を語ります。

撮影＝早稲田キャンパス正門前、早大通り

時代要請に合わせ進化を遂げてきた 早稲田キャンパスの歩み

早稲田大学が創立間もなく木造校舎だった頃、周囲は「早稲田」と呼ばれる田んぼでした。将来にわたるキャンパスプランを担った建築学科主任教授の佐藤功一は、当時の高田早苗総長に、基盤目状の配置計画への変更を進言。以後、大隈記念講堂、大隈銅像、坪内博士記念演劇博物館と、続々とXY軸のグリッド上に沿って建物が整備されていきます。

田園風景から都市的な景観へと移り変わった第一期(1882年～1930年頃)を経て、戦後復興に合わせたキャンパスの拡張を目指した第二期(1950年～1970年頃)、校舎の高層化と正門周辺の歴史的な景観の継承の両立を目指した第三期(1997年～2022年頃)と、早稲田キャンパスは時代の要請に合わせて整備されてきました。IT革命からAIの台頭に至る時代と重なる第三期の主要課題は、最先端の研究環境の提供と、留学生をはじめとする多くの学生を収容するための高層化でした。一方で脈々と受け継がれてきた「こころの故郷」と呼べるようなキャンパス景観を継承しようと、伝統と革新を融合させた建築設計にも取り組んできました。3号館や8号館には、その理念と技術が結集されています。

地域社会の発展に貢献する 大学の知的資産

そして第四期にあたる2023年からは、「Waseda Campus Master Plan 2023」に沿ったキャンパス整備が実施されています。目指すのは、「まちと融合した大学」。大学周辺の街をキャンパスと見立て、都市と一体化した大学を目指します。ヨーロッパでは既に、知的産業としての大学が都市の発展を牽引するという事例が見られます。学生や教職員がもたらす地域活動や環境活動、キャンパスの防災拠点としての役割、知的

財産を基にした産学連携による経済貢献など、大学が地域にもたらすプラスの効果は大きく、大学としても教育や研究の場がリアルな都市空間に染み出していき、社会貢献活動につなげていくことが重要です。「無門の門^(※1)」に象徴される早稲田大学の社会に開かれた姿勢は、この思想と共鳴すると考えました。

新たな知の拠点として新9号館が 2027年に供用開始

同時に、時代に合わせたキャンパス内の整備も必要です。コロナ禍を契機に、自宅でオンラインにより授業を受講し、大学では仲間やTA^(※2)と演習やディスカッションを行う「反転学習」の教育効果が確認されるようになり、大教室よりも小さなスペースのニーズが高まっています。ラーニング・コモンズやポケットパークをはじめ、偶発的な出会いからイノベティブな発想が生まれるよう創造的空間を増やしていく次第です。

また、地域社会に貢献する上でも、環境問題へのアプローチは欠かせません。事業者の中でも大学はCO₂換算の温室効果ガス排出量が多いことから、大きな責任を有しています。本学は2021年に「カーボンニュートラル宣言」を発出し、創立150周年にあたる2032年を目途に、各キャンパスにおけるCO₂の排出量実質ゼロの達成を目指しています。

これらの背景から、2027年の供用開始に向け、新9号館の建設を進めています。ラウンジや読書室などコモンスペースの充実や、学内ワンストップサービス拠点である「早稲田ポータルオフィス」の移設、バイオフィリックデザイン^(※3)の積極的な採用や「木立のひろば」(仮称)の整備による「早稲田の森」の継承など、新たな知の拠点として機能させていく予定です。

※1 早稲田大学を象徴する、門柱や塀のない門

※2 TA…ティーチング・アシスタント

※3 バイオフィリックデザイン…建築物や空間に自然の要素を取り入れるデザイン手法

★ 在 学 生

寮生活で 国際交流を もっと身近に

早稲田大学国際学生寮WISH
レジデント・アシスタント (RA)
政治経済学部3年
坂本直追弥さん



国際学生寮「Waseda International Student House (WISH)」のRAとして、寮内のイベントやSI (Social Intelligence) プログラムの運営に関わる。また、ラクロス部では日本一を目指し、日々練習を重ねている。
※学年は取材時(2023年度)のものです

気になる人物像



Q 休みの日は何をしていますか？
A よくサウナに行っています。ラクロス部とRAの両立で慌ただしく動き回ることが多いので、お気に入りのサウナで静かに瞑想する時間が癒やshiなっています。

Q キャンパス内のお気に入りの場所はどこですか？
A 中央図書館です。実は高等学院時代から、試験やレポートの資料を探すためによく通っていました。特に気に入っているのは、一人で集中できる作業スペース。いろいろな課題を乗り越えた思い出があります。

大学での学びを最大限に生かし、さまざまな場所で活躍する在学生・卒業生を紹介。今回は国際学生寮WISHでRAを務める坂本直追弥さんと、早稲田アリーナの設計を手掛けた建築家の水越英一郎さんにお話を伺いました。

早稲田大学の国際学生寮WISHで暮らしながら、寮生の生活をサポートするレジデント・アシスタント (RA) として、寮内コミュニティの発展に努めています。

WISHの最大の特徴は、留学生と日常的に交流し、共同生活を通して互いの文化への理解を深められることです。講義だと会えるのは週に1、2回程度ですが、寮では毎日気軽に会話ができます。ともに過ごす時間が長い分、深い関係性を構築できるのが魅力です。

入寮した当時はコロナ禍の影響で人が少なく、海外のルームメイトの入寮も1年遅れに。対面での交流ができない分、自らSNSでのやり取りを試み、入寮日には寮まで道案内する仲になりました。

そうした経緯もあり、人が減ってしまったWISHの活気を取り戻す活動をしたいと思い、RAになりました。イベント部署に所属し、

普段から親睦を深められる企画を考えています。特に人気なのは、皆で各国の料理を作って食べるイベント。寮生に聞いた本場のレシピで作ることで、他国の文化を知るいい機会にもなり、とても盛り上がりました。3月には新しく300人ほど入寮する予定^(※)なので、RAとしてしっかり支えたいです。

卒業後は、デベロッパー業界を目指しています。イベントの企画を通じて、学生が交流できる空間を作る役割にやりがいを感じたことがきっかけです。また、寮生が社会で活躍する力を育む「SIプログラム」の企画を行った際、ニーズに合った講師の招聘に難航したことで、社会人と学生をマッチングさせることに関心を持つようになりました。WISHでの経験を生かし、必要な情報や体験を多くの学生が享受できるようなコミュニティ作りに携わっていきたいです。

※ 取材当時(2024年2月)



★ 卒 業 生

建築設計を通して 未来社会の 在り方を考える

株式会社山下設計
ジェネラルアーキテクト
水越英一郎さん



1995年早稲田大学大学院理工学研究科修了後、株式会社山下設計に入社。長年早稲田大学施設の設計に携わり、早稲田アリーナ(37号館)ではSDGs建築賞、環境・設備デザイン賞、BCS賞等多くの建築賞を受賞している。

山下設計という建築設計事務所に所属し、2004年竣工の93号館をはじめ、11号館、40号館など早稲田大学にある数々の施設設計を手掛けさせていただきました。

私が建築に興味を持ったきっかけは、母校・本庄高等学校の旧校舎です。教科別に分棟化され、まるで小さな街のようになっていて、今までに見たことのない学校建築に衝撃を受けました。そこで毎日を過ごすうちに、「建築は人の生活スタイルや価値観に大きな影響を与える」と実感し、自分も勉強してみたくなったのです。

大学では、「お前はデザインがうまくないから、論理的な設計で個性を作れ」と先生にアドバイスされ、それが現在の設計活動のベースになっています。建築はそれぞれの立地環境との関係で成り立っているもの。敷地やその周辺の個性を丁寧に読み解き、それらを生

かしながら、新しい生活の在り方を提示できるよう考えています。

早稲田アリーナは、「大学が次世代へのビジョンを発信していくシンボル」になればと考えてデザインしました。建物の大半を地下に配置し、地上には「戸山の丘」という緑豊かなパブリックスペースを設けることで、生活/地域環境・生態系の改善を図っています。エネルギー面でも、空調システムに地中熱を利用し、「ゼロエネルギーアリーナ」を達成。さらに、災害時にも利用できる耐震設計です。

現在設計責任者を務めている新9号館も、早稲田キャンパスの歴史性を継承しつつ、緑を多く取り入れていく予定です。省エネルギー＝不便ではなく、快適に過ごせる空間でありながら、未来社会に対する価値観もアップデートしていける、今後もそんな建築物を設計していきたいです。

気になる人物像



Q どんな大学生活を送っていましたか？
A アトリエ設計事務所でアルバイトをしたり、大学の課題に追われたりとか、とにかく「デザイン漬け」の日々でした。当時は同じように熱量を持った同級生たちと、切磋琢磨していましたね。

Q 休みの日は何をしていますか？
A コロナ禍以降、一人で街歩きをすることが増えました。電車に乗っているだけでは気づかなかった街のつながりや、それぞれの地域の特徴が見えてくるのが面白いですね。街全体を大きく捉える視点は、仕事にも役立っています。



オンライン授業やeラーニングなど、めまぐるしく進化を遂げている学習環境。
ICTツールやAIの活用も注目されている中、
キャンパスが果たす役割とは、どういったものなのでしょうか。

活発な交流が生み出す 創造的な学びの場をデザイン



人間科学学術院
教授

尾澤重知

1999年慶應義塾大学環境情報学部卒業。2004年北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士(知識科学)後期課程修了。大分大学高等教育開発センター講師、同准教授等を経て、2010年早稲田大学人間科学学術院准教授、2021年4月より現職。学部における組織的な教育・学修支援、とりわけアカデミックスキルやデータリテラシーの育成、自己点検・評価に関わる活動に参画。

多面的なアプローチで より良い学びの環境を追求

情報・認知科学やICTを活用し、より効果的な教育を目指す教育工学という分野で、人の学びの支援について研究しています。創造性、主体性を育む学びを実現するためには、学習環境のデザインが不可欠と考え、その整備に取り組んできました。ICTツールの活用やそれを使用する教職員のサポートが代表的ですが、言葉では表しにくい雰囲気や「場」のデザインも重要だと考えています。教育機関や企業の優れた指導者に話を聞き、その実践を言語化して、異なる場で活用できるように汎用性を高める取り組みも研究の一部です。

支援というのは積極的なアプローチだけではありません。近年力を入れているのが、学びの妨げとなる認知バイアスを取り除くという考え方です。例えば日本は海外と比べて「文系」「理系」の壁が厚く、さまざまな学問領域を横断的に学ぶ「学際的思考」の育成が遅れています。学生が自分は「文系/理系」だからと未知の領域に挑戦しようとしないうちは、広い意味での認知バイアスといえるでしょう。このような認知の偏りを是正する手法の開発が、現在の主な研究課題です。

キャンパスでの積極的な交流が 探究的な学習を促進する

私が行う講義では、アクティブラーニングや「探究的な学習」を重視しています。講義の最大の目標は、問いを立てる力を身につけること。これはAIにはできない、人間ならではの活動です。「なぜ空は青いの?」といった素朴な問いも重要ですが、自身の体験に即した、「探究せずにはいられない」主体的な問いを立てられるようになることを目標にしています。

日本の初等・中等教育では、授業中に誰も手を举げない、教科書で決められた範囲外の質問をしづらいといった、探究を深めにくい雰囲気があり、課題とされています。学習指導要領の改訂などによって改善されつつありますが、大学入学時点では、学生によって授

業内での質問や発言への積極性、クリティカルシンキングのスキルにばらつきがあるのが現状です。

そのため、講義内では、段階的にアカデミックな問いを立てる練習を行います。隣の席の学生へ相互にインタビューするなど、簡単なところから問題意識を持って周りのものを観察する訓練を重ねていくのです。特に早稲田大学には多様なバックボーンを持つ学生が集まっているので、議論を通して、ものの見方や考え方の違いに気づきやすく、発見が次の探究の原動力になります。これはキャンパスという、人が集まる場があるからかなうことですし、さらに活発な交流が生まれる場のデザインを追求していきたいと考えています。

その一環で、「CTLT Classroom」と呼ばれるアクティブラーニング用の教室の整備にも関わりました。ICTを活用し、各自のPCのデータをスクリーンに投影できるようにしたり、高さが変えられる机や椅子を設けて自由に動きやすくしたりして、「対話型、問題発見・解決型授業」を推進する教室になっています。使用した教職員からは「学生たちの議論が想像以上に盛り上がり驚いた」と好意的な声をいただきました。

主体的な学びを身につければ 将来の可能性がどんどん広がっていく

教育は、個別最適化が重要で、一人ひとりサポートすべき内容が異なります。多くの学生が集まる場で全員に向き合うのはとても難しいですが、学習環境を整えていけば学生同士で自然と学び合ってくれますし、ICTツールも最大限に活用してフォローしています。

サークルやアルバイトなどの課外活動にも、もちろん学びがあるでしょう。ただ、誰かが決めた枠組みの中での活動にとどまる限り、創造性は発揮しにくいものです。一方、一度自分で問いを立てられるようになれば、世界は際限なく、自由に広がっていくことを実感できるはず。学生の皆さんが「自分はこんなものだ」と決めつけて将来への可能性を狭めてしまわないよう、未来に開かれた学びを深められるような環境を構築して、より創造的な学習を支援していきたいです。



イチョウの木と大隈記念講堂／早稲田キャンパス



56号館前の梅の花／西早稲田キャンパス



桜の花越しに望む校舎／本庄高等学院



100号館から見た景色／所沢キャンパス



メタセコイアの並木／戸山キャンパス



雪と大隈銅像／早稲田キャンパス



学生第二食堂／所沢キャンパス



卒業式・入学式の際に設置されたブロックオブジェ／早稲田キャンパス

Seasons of WASEDA

各キャンパスの日常、四季折々の光景を、写真でお届けします。



キャンパスの写真は
SNSで発信しています

Instagram
早稲田大学公式アカウント
@waseda_university

早稲田大学が運営するInstagramアカウントでは、キャンパスの日常風景を発信しています。ぜひこちらもフォローしてください。



こんな
授業!
どんな
ゼミ?文=政治経済学部 4年
鳴海 太郎実際に「ポートマッチ」を参考にし
て、選挙に行き投票してきました

選挙って面白い!政治が身近になる「選挙論」

現代選挙論 1、2

【社会科学部設置科目】

政治を、私たちにとって最も身近な政治参加ツールである「選挙」からアプローチして理解していく授業が、遠藤晶久先生の「現代選挙論」です。政党、候補者、メディア、そして私たち有権者がどのように選挙に関わり、政治を作り上げてきたのかを学びます。

選挙の歴史的背景から政治を見ると、知らないこと、気づかなかったことがたくさんあります。普段メディアなどから得る情報とは違い、学問として選挙を学ぶことで、政治

をより多面的に見ることができるようになりました。

また、「ポートマッチ」というインターネットサービスを利用して、日本の政党間の政策対立軸について考察したりと、リアルタイムで進行する政治現象を授業で扱い、実感を持って授業を受けられました。「現代選挙論」は、私たちがこれから有権者としてずっと向き合う「選挙」への参加の第一歩として本当にぴったりです。

授業で紹介された、先生の著書「イデオロギーと日本政治―一世代で異なる「保守」と「革新」」。各世代の考えが分かりやすいです

私の
ワセメシ取材・文・撮影=法学部 4年
佐久間 隆生「メカジキのラグーとジャガイモの
リゾット」1,100円(税込み)旬の食材と魚介が絶品
早稲田の新星イタリアン

「caro amico」

2 023年4月にオープンし、人気を集めるイタリアン。その時々旬の食材に加え、釣り好きのシェフの趣向で、魚介を使用したメニューも好評です。気になるランチはメインが2種類あり、週替わりのパスタとリゾットから選べます。

ぴー ぷる

取材・文・撮影=法学部 4年
佐久間 隆生できるだけ良い環境でサッカーを
したいと早稲田へ進学した植村さん幼少期の夢叶え、
新たなサッカー人生踏み出す

早 大ア式蹴球部で活躍してきた、スポーツ科学部4年の植村洋斗選手。大学卒業後には、Jリーグクラブ・ジュビロ磐田への加入が正式に決まっています。早稲田のア式だからこそ得られた気づきや経験が本当に多く、かけがえのない4年間となったと語ります。

サークル
紹介日本初のいちご大福
研究インカレサークル

「早稲田大学いちご大福研究会」

文=法学部 3年 熊谷 瞳

いちご大福の魅力を世界に広めたいとの思いで2016年に発足。2022年からは商品開発に重きをおいて活動し、いくつかの困難がありながらも、メンバー同士で話し合いながら試行錯誤した結果、2023年4月に西早稲田にある「茶々工房」とコラボした商品を期間限定販売しました。



定期的に行っている市販の大福の食べ比べでは、一度に4〜5種類を比較します

研究
まっしぐら!文=大学院文学研究科
博士後期課程 3年
吉田 眞生子19世紀の
フィンランドを
史料から読み解く

フィンランドには、国語が二つ(フィンランド語とスウェーデン語)あります。これはフィンランドがかつて、スウェーデン王国の一地方だったことと関係しています。

フィンランドでは、1809年にロシア帝国に編入されたものの、それ以降もスウェーデン王国の法や宗教の維持が許され、行政や教育の言語としてもスウェーデン語が使用されていました。そのため、高等教育を受け、役人や教師などになった者たちの多くは、スウェーデン語を日常的に用いていました。しかし次第に、スウェーデン語話者の知識人の中から、「フィンランド語を土台としたネイション(国民/民族)」という考えが示されていきました。そしてそれ

への反対と、それに代わる多様な「フィンランド・ネイション」の構想もまた、スウェーデン語話者の知識人の中から現れてきました。私は、彼らの議論の過程を、フィンランド社会の変化だけでなく、ロシア帝国全体の変化にも目配りしながら明らかにすることを目指しています。根気強く読み進めた史料から、新たな発見があったときの喜びは大きいです。

フィンランド・ヘルシンキのクリスマスマ
ケットの様子。留学中に友人と行きましたキャンパスライフの情報は、ウェブサイト
「早稲田ウィークリー」で随時チェックできます。

早稲田ウィークリー

「早稲田ウィークリー」は、早稲田大学学生部が発行する学生向けウェブマガジンです。授業期間中は毎日更新。学生生活に役立つ情報など多様なコンテンツを提供しています。こちらの誌面に登場したトピックスも、ウェブサイトにてさらに詳しく紹介しています。



※早稲田ウィークリーの記事を編集して掲載しています。また、記事内容は早稲田ウィークリー掲載時のものです。





1 自動車部
ミスの少ない走りで
他を引き離れた近藤



2 バレーボール部
チーム一丸となって
優勝をつかみ取った



3 水泳部
松本は今大会早大勢で
唯一のメダルを獲得



4 スケート部
結成わずか7カ月目ながら
息の合った演技を見せた「あずしん」組



5 レスリング部
初めて天皇杯を手にした
片岡(上)と玉岡(下)

W-Sports

RESULT

「止まらない躍進」

写真提供=早稲田スポーツ新聞会

数々の輝かしい成績を誇る、
早稲田大学の体育会44部、
各部の活躍を紹介します。

1 自動車部 全日本学生運転競技選手権

2023年11月12日
三重・鈴鹿サーキット
男子団体の部で準優勝。男子個人の部
では貨物Bで近藤怜が優勝、乗用Bで
柳井滉洋が準優勝、貨物Aで宮崎巧郎
が3位と、3人が表彰台上に上がった。

2 バレーボール部 全日本大学選手権

2023年11月27日～12月3日
東京・大田区総合体育館
男子が日本一に輝き、大学四冠を達成
した。

3 水泳部 ジャパンオープン2023

2023年11月30日～12月3日
東京アクアティクスセンター
女子50メートル自由形で松本信歩が銀
メダルを獲得。

4 スケート部 全日本選手権

2023年12月20～24日
長野ビッグハット
アイスダンスで田中梓沙・西山真瑚の
「あずしん」組が総合2位を獲得した。

5 レスリング部 天皇杯全日本選手権

2023年12月21～24日
東京・代々木第二体育館
男子はグレコローマンスタイル82キロ
級で玉岡颯斗が優勝、掛川零恩が3位、
フリースタイル92キロ級で掛川が2位。
女子は53キロ級で片岡梨乃が優勝、
50キロ級で伊藤海が準優勝と、好成績
を収めた。

体育各部の戦績を紹介する
「W-Sports」を毎号掲載
早稲田学報

早稲田大学校友会が発行する卒業生向けコミュニケーション誌。年6回(毎奇数月15日)発行し、校友会費をご納入の方と定期購読をお申し込みの方のご自宅にお届けしています。『早稲田学報』は、さまざまな業界・分野で活躍する多彩な校友や校友会活動の紹介など、早稲田魂を揺さぶる話題が満載です。4月号の特集は「油田」。食わずにはいられなくなるはずの「油田」という新しい早稲田文化を紹介します。



早稲田大学 校友会

校友会は、早稲田大学の第一回卒業生が出た翌年、1885(明治18)年に発足して以来、日本全国・世界各地に組織を広げて活動する同窓会組織です。校友の親睦を深め、母校・後輩を力強く支援するとともに、校友の人生を応援するサービスの充実に努めています。在学生・卒業生のご父母で、会費をご納入いただいた方は、父母会員としてサービスを利用することが可能です。
<https://www.wasedaalumni.jp/>



令和6年能登半島地震で被災された皆さまへ

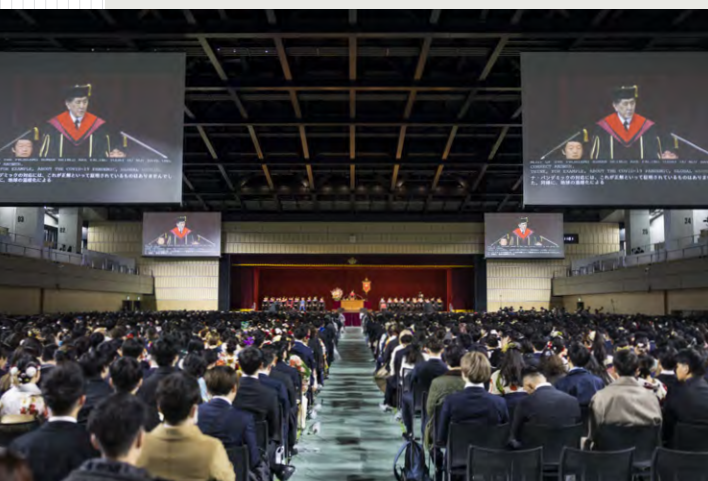
令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、犠牲となられた方々におくやみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地域の皆さまの安全の確保を心よりお祈りいたします。本学は、被災地域の学生に対し、在学上の経済援助など、できる限りの支援を行ってまいります。

能登半島地震に対する早稲田大学の対応について



卒業式、入学式を挙行

式典の様子はインターネットでライブ配信



3月25、26日、戸山キャンパスの早稲田アリーナにて、2023年度学部卒業式、芸術学校卒業式および大学院学位授与式を執り行い、計10,026名が新たな門出を迎えました。場者の安全確保と地域交通への影響を鑑み、式典への参加は卒業生、修了生のみに限定。保護者の皆さま向けには早稲田キャンパス内に同時中継会場を設けるとともに、ライブ配信を行いました。式典では、総代、博士の学位記授与に続き、田中愛治総長より卒業生へ式辞が送られました。田中総長は、式辞で「学部を卒業される皆さんの多くは、2020年4月に新型コロナウイルス感染症拡大の最中に入学されました。皆さんのなかには、最も充実すべき学生生活の多くが失われた、という感覚をお持ちの方もおられるでしょう。しかし、コロナ・パンデミックの経験をネガティブに捉えず、この辛い経験が役に立つときがある、と信じて進んでいただきたい」と激励しました。

4月1、2日には、早稲田アリーナにて2024年度学部・芸術

学校・大学院入学式を執り行いました。2024年4月の学部入学者8,947名が、早稲田の杜での生活をスタートさせ、大学院入学者の2,985名が、さらに学問を追究し、学問の発展に貢献していくことを目指します。田中総長は式辞で「早稲田で思う存分、勉強し、自分のやりたいと思う活動にも力を入れて、充実した学生生活を送ってください。4年後には、より遅しくなって、よりしなやかに輝いている皆さんを、今よりも輝いている早稲田大学が、送り出したいと思います」と激励しました。



卒業式の様子は
こちらからご覧
いただけます



入学式の様子は
こちらからご覧
いただけます

保護者等の皆さまへ近況を報告

地域交流フォーラムを14会場で開催

主に1都3県(東京・埼玉・千葉・神奈川)以外にお住まいの保護者等の皆さまを対象とした地域交流フォーラムを開催します。本学における取り組みをご紹介しますほか、学生によるトークセッション、保護者等の方々同士での懇談会、職員との個別相談などを実施予定です。企画内容や時間帯などの詳細はウェブサイト上にてご案内しております。

※ご参加には事前申し込みが必要となりますのでご注意ください。



2023年度開催時の様子



【2024年度 地域交流フォーラム会場・日程一覧】

地域	日程	会場
山口	6月23日(日)	山口グランドホテル
大分	6月29日(土)	ホテル日航大分 オアシスタワー
岡山	7月15日(月・祝)	ホテルグランヴィア岡山
静岡	7月21日(日)	ホテルグランヒルズ静岡
秋田	7月28日(日)	ホテルメトロポリタン秋田
山形	8月25日(日)	ホテルメトロポリタン山形
徳島	9月8日(日)	JRホテルクレメント徳島
富山	9月16日(月・祝)	ANAクラウンプラザホテル富山
和歌山	9月22日(日)	ホテルグランヴィア和歌山
愛知	10月14日(月・祝)	名古屋ガーデンパレス
宮崎	10月27日(日)	アートホテル宮崎 スカイタワー
福岡	11月9日(土)	福岡ガーデンパレス
栃木	11月24日(日)	ライトキューブ宇都宮
大阪	12月1日(日)	新大阪ワシントンホテルプラザ

動画コンテンツで大学の取り組みをご紹介します

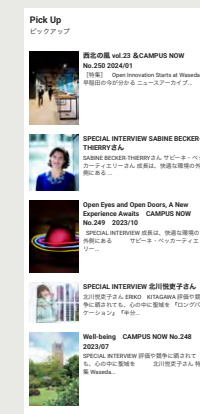
地域交流フォーラムにてご紹介している大学の取り組みなどを動画コンテンツにまとめています。保護者等の皆さまより多く寄せられるご質問をまとめたFAQもございます。右記QRコードよりご覧ください。



最新のニュースは、
早稲田大学
オフィシャルウェブサイトで!



本ページで紹介したニュースは、早稲田大学オフィシャルウェブサイトでご覧いただけます。



CAMPUS NOW
はウェブサイトでも
ご覧になれます。

読者ウェブアンケート

皆さまのご意見を反映し、より良い誌面にしていくためにアンケートにご協力ください。申請フォームはこちらのQRコードよりお願いします。



表紙写真



西早稲田キャンパス
63号館

理工学術院の教育・研究拠点を拡充すべく、2008年に完成。エントランスホールには、早稲田大学のロボット研究開発の歴史を伝える貴重なロボットが展示されています。



今回の特集では、学生たちが集うキャンパスについて紹介しています。

「集合の力」を重視した大隈重信は、

1921年4月の始業式に際しての演説で、

大講堂の必要性について次のような言葉を残しています。

漸次増加する所の早稲田学園の学生諸君、

もはやかくの如く群衆する所の

多数の学生を容る家のないということは

諸君に対して甚だ申訳のないことである。

しかしながら物は必要から生ずるのである。

学生が増すと、余儀なくされて家が出来て来るのである。

(中略)

この学校は来年を以て創立第四十年の祝典を

挙げるのであって、既に一万四、五千の卒業生を出している。

今一万以上の学生が集っているのに

大なる講堂をもたぬというのは実に遺憾である。

そしてその6年後の1927年、大隈記念講堂が完成しました。

出典：『大隈重信演説談話集』早稲田大学編（岩波文庫）
協力：早稲田大学歴史館

WASEDA VISION 150

大隈重信が宣言した早稲田大学教旨を受け継ぎ、

本学は、創立150周年を迎える2032年の本学のあるべき姿を思い描き、

2012年に中長期計画“WASEDA VISION 150”を策定しました。

2018年以降、これをさらに進化させるべく新たなスローガンとして

「世界で輝くWASEDA」を掲げ、施策の検証と改善を繰り返しながら、不断の改革を実行しています。

詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.waseda.jp/inst/vision150/>



WASEDA University
早稲田大学